

企画・執筆者紹介 (五十音順)

天羽健太郎 あまは・けんたろう

聖路加国際病院 整形外科 医幹

1975年横浜市生まれ。2002年昭和大学医学部卒。聖路加国際病院での初期研修を経て、同院整形外科レジデント。年整形外科専門医取得。2010年奈良県立医科大学整形外科国内留学。2010年アメリカ、キャンベルクリニック留学。2014年より現職。専門は整形外科、足の外科。

これまでの著書に『症状から一発診断!整形外科専門医はこう見立てる』(総合医学社、2015年)など。

荒木信人 あらき・のぶひと

市立芦屋病院 整形外科

1959年神戸市生まれ。1984年大阪大学医学部卒。研修医時代14歳のユーイング肉腫患者が亡くなり骨軟部腫瘍領域に従事。1987年より大阪大学大学院、1990年より米国テネシー大学留学。1992年大阪大学へ帰国、1998年より大阪府立成人病センターにて19年勤務し、2017年夏より現職。骨転移については2002年から4年間厚生労働省骨転移研究班班長、2015年発刊の臨床腫瘍学会骨転移診療ガイドライン作成委員。

著作として、Factors associated with the decision of operative procedure for proximal femoral bone metastasis. Journal of Orthopaedic Science 2017; 22: 938-945などがある。

荒田雄人 あらた・ゆうと

聖路加国際病院 リハビリテーション科

1986年千葉県生まれ。2009年首都大学東京卒。同年聖路加国際病院に理学療法士として就職、主に脳血管障害のリハビリに携わる。2018年より聖カタリナ病院へリハビリテーション部門長として出向、地域包括ケア病院の立ち上げに関わっている。専門は片麻痺、骨転移、血液疾患のリハビリテーション。

池山晴人 いけやま・はると

大阪国際がんセンター 相談支援センター 副センター長

1965年伊丹市生まれ。1988年関西学院大学卒、2012年関西福祉科学大学大学院博士前期課程修了。社会福祉士・精神保健福祉士として病院(救急病院・リハビリテーション病院・呼吸器疾患専門病院)、精神科診療所にて相談支援業務に従事。2014年国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供研究部医療情報サービス室長、がん相談支援センター相談員の研修企画・運営、「がんと共に働くプロジェクト」の運営に携わる。2017年より現職。

石橋美樹 いしばし・みき

大阪国際がんセンター 歯科 部長

兵庫県赤穂市生まれ。1999年大阪大学歯学部卒。兵庫医科大学での研修を経て、2003年星ヶ丘厚生年金病院、2003年大阪大学歯学部附属病院、2010年NTT西日本大阪病院を経て、2014年吹田徳洲会病院歯科口腔外科部長。2016年大阪大学歯学部助教、講師を経て、2017年から現職。専門は口腔外科学、口腔がん治療、がん支持療法。

大阪市東歯科医師会会報にて『一歩進める東の医科歯科連携～がん周術期口腔機能管理編～』連載中。趣味はゆっくりペースのマラソン、食べ歩き。

市野由佳子 いちの・ゆかこ

大阪国際がんセンター 看護部

1996年、大阪府立成人病センター入職。

市原 真 いちはら・しん

札幌厚生病院 病理診断科

1978年北海道生まれ。2003年北海道大学医学部卒。2007年北海道大学大学院医学研究科分子細胞病理学博士課程修了。国立がん研究センター中央病院病理部にて半年間の任意研修後、2007年10月より札幌厚生病院病理診断科。病理専門医、臨床検査管理医、細胞診指導医。

Twitter: @Dr_yandel

伊村慶紀 いむら・よしのり

大阪国際がんセンター 整形外科(骨軟部腫瘍科)

1981年広島県生まれ。2006年大阪大学卒。専門は骨軟部腫瘍外科学。

岩西雄大 いわにし・かつひろ

大阪国際がんセンター 薬局

1979年和歌山県生まれ。2003年摂南大卒。2009年奈良先端大学博士後期課程を修了し、工学博士取得。2009年、大阪府立成人病センター(現 大阪国際がんセンター)非常勤。2011年大阪府立精神医療センター、2014年大阪国際がんセンターを経て、2018年同センター薬局主査。2018年4月からは、日本在宅薬学会評議員を務める。

上園保仁 うえぞの・やすひと

国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野 1959年宮崎県生まれ。1985年産業医科大学卒、1989年同大学院修了。医学博士取得。1991～93年まで米国カリフォルニア工科大学生物学部門留学。2004年長崎大学大学院医歯薬学研究科内臓薬理学准教授。2009年より現職。2015年より国立がん研究センター先端医療開発センター支持療法開発分野分野長を兼任。専門は分子神経薬理学、緩和医療学。

これまでの著作に、『Q&Aでわかるがん疼痛緩和ケア』(じほう、2014年)、『長生きするがん治療』(ワニブックス、2015年)、『今すぐ始めたい婦人科がん領域における緩和医療の実践』(金原出版、2017年)などがある。

扇田 信 おうぎた・しん

聖路加国際病院 腫瘍内科

2003年筑波大学卒。国立国際医療センター初期研修医、Beth Israel Medical Center内科レジデント、Wayne State University/Karmanos Cancer Institute 血液腫瘍内科フェローを経て2011年より現職。米国内科、腫瘍内科、血液内科専門医。

大島和也 おおしま・かずや

社会医療法人 生長会 ベルランド総合病院 リハビリテーション科部長 兼 整形外科副部長

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 本部 スーパーバイザー

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 特命顧問(サポーターティブケア推進)

1975年京都府生まれ。1993年洛南高卒。2000年大阪大学卒。2007年阪大大学院修了。阪大、国立がん研究センター中央病院を経て、ニューヨーク留学。2011年より大阪府立成人病センター。大阪国際がんセンターリハ部長・整外副部長、大阪府立病院機構本部事務局マネージャー(リハ改革担当)を経て、2018年より現職。専門は脊椎、骨転移・骨軟部腫瘍、がんリハ、がんロコモ、緩和外科、トータルサポーターティブケア。

『骨粗鬆症治療』『アディポサイトカイン』(先端医学社、2005年)、『脊椎脊髄ジャーナル』『肺がん転移性脊椎腫瘍に対する治療戦略』(三輪書店、2015年)、『軟部腫瘍プラクティカルガイド』『悪性軟部腫瘍の治療体系』(中山書店、2011年)、『癌と骨』『脊椎転移と脊髄麻痺』(メディカルレビュー社、2013年)、『消化器看護』『チームアプローチで行う患者の思いを尊重した骨転移の治療』(日経研、2017年)など、多数。

岡本亜樹 おかもと・あき

大阪国際がんセンター 相談支援センター

1989年シンガポール生まれ。2012年龍谷大学卒。同年より、大阪国際がんセンター(旧 大阪府立成人病センター)相談支援センターに勤務。2017年に認定がん専門相談員を取得。専門はがん医療におけるソーシャルワーク。「あなたに相談してよかった」と、患者・家族からはもちろん、多職種・他機関のスタッフからも信頼されるMSWを目指して日々奮闘中。

岡本美香 おかもと・みか

大阪国際がんセンター 看護部

2010年、大阪府立成人病センター入職。

片岡桂子 かたおか・けいこ

訪問看護ステーションしほう

1970年大阪府生まれ。1992年国立大阪南病院附属看護専門学校卒。国立大阪阪南病院(現 独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター)、大阪警察病院勤務を経て1998年医療法人弘善会訪問看護ステーションに勤務。管理者を経て、2004年有限会社志宝を設立。同年に訪問ステーションしほう開設。2007年居宅介護支援事業所、福祉道具・住宅改修事業を開設。2015年看護小規模多機能型居宅介護事業所を開設。2018年大阪府訪問看護ステーション協会副会長に就任し、(有)志宝 代表取締役を務めながら現在にいたる。掲載誌:『コミュニティケア』(日本看護協会出版会、2016年)、情報誌:『ケアテvol.7』(大阪府看護協会、2015年)、『地域包括ケア時代の看看連携実践事例集』(メディカ出版、2016年)、掲載誌:『医療と介護Next』『訪問看護ステーションならではのスタッフ教育の課題』など。

河野博隆 かわの・ひろたか

帝京大学医学部附属病院 整形外科

1966年東京都生まれ。1992年東京大学卒。東京大学医学部附属病院、JR東京総合病院麻酔科、癌研究会附属病院整形外科、東芝病院での研修を経て、1997年東京大学大学院進学。2002年東京大学医学部整形外科医局長、2004年ニューヨーク市メモリアル・スローン・ケタリング癌センター客員研究員、2008年東京大学医学部整形外科 講師、2013年東京大学大学院医学系研究科 整形外科 准教授、2015年より現職。専門は骨軟部腫瘍、脆弱性骨折。

北野滋久 きたの・しげひさ

国立研究開発法人がん研究センター中央病院 先端医療科

先端医療開発センター新薬臨床開発分野・免疫療法開発分野

1972年大阪府生まれ。1998年三重大学医学部卒、同大学内科学第二講座に入局、同科関連病院にて一般内科研修を行なう。2001年、三重大学大学院医学系研究科入学、造血器腫瘍と固形腫瘍の診療を行ないつつ、新規がん免疫療法の臨床試験、患者免疫応答解析の研究に携わる。2005年、同大学大学院医学系研究科 遺伝子・免疫治療学講座の助手。2008年、同血液・腫瘍内科助教。2009年、Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, Ludwig Center for Cancer Immunotherapy (Drs.Jedd Wolchocck and James Allison)に留学、免疫チェックポイント阻害剤(抗CTLA-4抗体療法、抗PD-1抗体療法など)の新規がん免疫療法の開発、臨床試験登録患者の免疫応答解析を主としたトランスレーショナルリサーチ(TR)に携わる。2013年帰国、国立がん研究センター中央病院に赴任し、新規がん免疫療法をはじめ各種新規薬物療法の早期臨床試験、TRを行なっている。専門は腫瘍内科学、腫瘍免疫学、がん薬物療法(特にがん免疫療法)。

國頭英夫 くにとう・ひでお

日本赤十字社医療センター 化学療法科 部長

1961年鳥取県生まれ。1986年東京大学医学部卒。国立がんセンター中央病院内科などを経て現職。日本臨床腫瘍学会協議員・日本肺癌学会評議員。これまでの著作に里見清一名義で『偽善の医療』(2009年)、『衆愚の病理』(2013年)、『医師の一分』(2014年、すべて新潮新書)、『誰も教えてくれなかった癌臨床試験の正しい解釈』(中外医学社、2011年)など多数。

公平 誠 こうだい・まこと

公平病院 腫瘍内科

1979年埼玉県生まれ。2004年に千葉大学を卒業し、千葉大学などでの研修を経て、2006年がん研有明病院化学療法科レジデント。2010年に国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科がん専門修練医、2011年～同医員、2014年～希少がんセンター兼任、2016年より医療法人慈会公平病院病院長。2017年千葉大学大学院卒業。専門は腫瘍内科であり、Community Oncologistとして活動している。

これまでの著作に『新臨床内科学』(医学書院、2009年)、『What's New in Oncology』(南江堂、2015年)など。

佐治重衡 さじ・しげひら

福島県立医科大学腫瘍内科学講座 主任教授

同附属病院 臨床腫瘍センター センター長

放射線医学県民健康管理センター 地域がん登録室 室長

1968年岐阜県生まれ。1992年岐阜大学医学部卒業。東京都立駒込病院、岐阜大学大学院、埼玉県立がんセンター研究所、カロリンスカ医科大学(スウェーデン)、東京都立駒込病院乳腺外科・臨床試験科、M.D.アンダーソンがんセンター(米国)、埼玉医科大学国際医療センター腫瘍内科、京都大学大学院医学研究科標的治療腫瘍学講座を経て2014年9月より現職。特に乳癌を専門とする腫瘍内科医として診療を行ないながら、ホルモン療法・分子標的治療に関する基礎・臨床・トランスレーショナル研究を継続している。

これまでの著作に『内科学 第10版』(朝倉書店、2013年)、『新臨床腫瘍学』(南江堂、2015年)、『最新 内分泌代謝学』(診断と治療社、2013年)など。

佐藤 雄 さとう・ゆう

聖路加国際病院 整形外科
1978年東京生まれ。2004年日本医科大学卒。聖路加国際病院での初期研修を経て同病院整形外科にて後期研修を終了。2011年より新潟中央病院脊椎脊髄外科センターに勤務。2014年より聖路加国際病院整形外科にて勤務。
専門は脊椎疾患。

品田雄市 しなだ・ゆういち

東京医科大学大学院 がん専門相談員
1973年埼玉県生まれ。1995年より東京医大病院に勤務し、現在は医療福祉相談係長。国立がん研究センター相談員研修講師を務める他、新宿区や東京都のがん対策推進関連の委員として、地域における包括的かつ効果的ながん患者支援体制作りにも携わる。社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員・認定医療社会福祉士。専門は医療ソーシャルワーク、がん・脳卒中・救命救急などの急性期におけるソーシャルワーク実践。「相談したら気持ちが温かくなった」と患者さんに感じてもらえる相談支援を心掛けている。
これまでの著作に『医療福祉総合ガイドブック』（医学書院、2017年）など。

島崎寛将 しまざき・ひろさ

大阪国際がんセンター リハビリテーション科
1980年大阪府生まれ。2002年河崎医療技術専門学校卒業。一般病院での経験を経て、2005年社会医療法人生長会ベルランド総合病院勤務（作業療法室リーダー・主任）。2015年恩賜財団済生会富田林病院技師長。2017年より現職。専門は、乳がんや頭頸部がんの周術期リハビリテーション、進行がんおよび緩和ケア領域でのリハビリテーション、リンパ浮腫治療など。
著作として『緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション』編著（中山書店、2013年）、『実践がんサバイバーシップ—患者の人生を共に考えるがん医療をめざして』分担執筆（医学書院、2014年）、『骨転移の診療とリハビリテーション』分担執筆（医歯薬出版、2014年）、『がんのリハビリテーションQ&A』分担執筆（中外医学社、2015年）などがある。

清水 研 しみず・けん

国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科 科長
1971年石川県生まれ。1998年金沢大学卒。東京都立荏原病院での初期研修後、国立精神・神経センター武蔵病院精神科、東京都立豊島病院精神科にて精神科一般の研修を積む。2003年より国立がんセンター東病院精神科レジデントとなり、以降は精神腫瘍学を専門とし、がん患者およびその家族の診療に専心している。2012年より現職。
『人生でほんとうに大切なこと』（稲垣麻由美著、KADOKAWA、2017年）に清水先生として登場。

白波瀬丈一郎 しらはせ・じょういちろう

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 特任准教授
1960年京都府生まれ。1986年慶應義塾大学卒。卒後、慶應義塾大学病院にて研修を経て、東京武蔵野病院、丘の上病院、慈雲堂内科病院に勤務。1996年慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室助手。2003年同医学部専任講師。2014年より現職。
専門は力動精神医学、精神分析学。

鈴木昌幸 すずき・まさゆき

大阪国際がんセンター リハビリテーション科
1985年広島県生まれ。2010年神戸大学医学部保健学科理学療法学専攻卒。2014年7大学連携個別化がん医療実践者養成プランがんリハビリテーションインテシンプコースを修了。2018年神戸大学大学院保健学研究科博士前期課程修了。吉田病院附属脳血管研究所、神戸低侵襲がん医療センターを経て、2017年より現職。

谷口小百合 たにぐち・さゆり

大阪国際がんセンター リハビリテーション科
1991年岡山県生まれ。2014年京都市大学人間健康科学科作業療法学専攻卒業。同年より大阪府立成人病センター（現 大阪国際がんセンター）に勤務。

田平芳子 たびら・よしこ

大阪国際がんセンター 看護部
1977年生まれ。2008年大阪府立成人病センター（現 大阪国際がんセンター）入職。2013年公益社団法人日本看護協会神戸研修センターの緩和ケア認定看護師教育機関を受講し、2014年緩和ケア認定看護師取得。現在、脳神経外科、整形骨・軟部腫瘍科にて患者さんご家族の支援に携わっている。

中井隆彰 なかい・たかあき

1982年兵庫県生まれ。2008年大阪大学卒。市立伊丹病院、旧大阪府立成人病センター、国立大阪医療センターおよび大阪大学医学部附属病院で整形外科レジデント研修。大阪大学大学院を卒業した後、大阪国際がんセンター整形外科を経て、2018年4月より現職。
専門は骨軟部腫瘍外科、一般整形外科。

中西克之 なかにし・かつゆき

大阪国際がんセンター 放射線診断科
1959年生まれ。1985年関西医科大学卒。1985年関西医科大学卒業、同年大阪大学放射線医学入局。1986～1989年国立呉病院放射線科、1989～1993年大阪大学放射線医学教室研究生、1993年Zentralklinikum Augsburg（アウグスブルグ中央病院）留学、1993～1997年大阪大学医学部助手、1997～2008年大阪船員保険病院放射線科医長・部長を経て、2008年より大阪府立成人病センター（現・大阪国際がんセンター）放射線診断科主任部長。また、2007年大阪大学臨床准教授、2009年からは同臨床教授を務める。
専門は骨軟部放射線診断、全身MRI研究。日本骨軟部放射線研究会世話人、関西SKR（Skeletal Radiology）研究会代表世話人、body DWI研究会、副代表世話人。

橋本一径 はしもと・かずみち

早稲田大学文学学術院 教授
1974年生まれ。東京大学文学部思想文化学科卒業。フランス・ナント大学理工学部DEA課程修了。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。愛知工科大学講師を経て、2012年より現職。専攻は表象文化論。
これまでの著作に『指紋論——心霊主義から生体認証まで』（青土社、2010年）など。訳書として、J=N・ミサ、P・ヌーヴェル編『ドーピングの哲学』（新曜社、2017年）など多数。

濱谷佳名子 はまたに・かなこ

元大阪国際がんセンター 薬局

1990年大阪府生まれ。2014年近畿大学薬学部医療薬学科卒。地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター入職。2017年3月より大阪国際がんセンターにて勤務。2018年6月末に退職。2018年7月に日病薬病院薬学認定薬剤師取得。

林 直輝 はやし・なおき

聖路加国際病院 乳腺外科 医長

2000年東海大学卒。聖路加国際病院での外科レジデント、乳腺外科フェローを経て、テキサス大学MD Anderson Cancer Center乳腺腫瘍内科留学。2012年昭和大学医学博士取得。2017年より現職。専門である乳腺外科腫瘍学、化学療法、骨転移に関する論文多数。

著作として、『チームで学ぶ乳癌の骨マネジメント』（篠原出版新社、2012年）、『Advanced Therapy of Breast Disease 3rd edition, “Management of Osseous Metastases and Impending Pathological Fractures”』（Pmpha, 2012年）など。

藤井志郎 ふじい・しろう

大阪国際がんセンター 心療・緩和科 副部長／緩和ケアセンター

1998年山口大学卒。大阪大学医学部附属病院神経科・精神科医員などを経て2011年大阪府立成人病センター（現 大阪国際がんセンター）心療・緩和科医長、2014年より現職。メンタルヘルスクア委員長、安全衛生管理者として同センターの産業医も兼務している。専門はサイコオンコロジー、緩和ケア。

著作として、『画像診断』vol.38 No.9（秀潤社、2018年）、『秘伝 臨床が変わる緩和ケアのちょっとしたコツ』（青海社、2010年）などがある。

松岡美緒 まつおか・みお

大阪国際がんセンター 栄養管理室

1985年大阪府生まれ。2007年武庫川女子大学卒。食品メーカーの研究開発職を経て、2010年武庫川女子大学大学院 食物栄養学専攻修了。2010年箕面市立病院 栄養部。2013年大阪府立成人病センター 栄養管理室。2017年大阪国際がんセンターへ移転名称変更。現在にいたる。専門は代謝栄養学、チーム医療。日本静脈経腸栄養学会学術評議員 NST専門療法士。

松田洋祐 まつだ・ようすけ

聖路加国際病院 緩和ケア科 医幹

1972年神奈川県生まれ。外資系銀行勤務を経て、2006年昭和大学医学部卒。東京都済生会中央病院での初期研修を経て、洛和会音羽病院総合診療科所属。以後、水戸協同病院総合診療科立ち上げに加わった後、筑波大学附属病院総合診療科所属。筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院などを経て、2012年より聖路加国際病院緩和ケア科所属。現在は緩和ケアチーム（専任）、緩和ケア病棟、緩和ケア外来を担当。専門は緩和ケア、総合診療。『Medical tribune』誌にて、実践・ケーススタディ連載（計17回で終了）。

山口郁美 やまぐち・いづみ

聖路加国際病院 看護部

1977年神奈川県生まれ。2009年千葉大学大学院看護学科研究科修士課程修了。2011年がん看護専門看護師を取得、サブスペシャリティは緩和ケア。聖路加国際病院にて、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム専従看護師の経験を経て、現在は外来で、消化器・呼吸器を中心に通院治療中のがん患者とその家族への面談も行っている。

山田眞佐美 やまだ・まさみ

大阪国際がんセンター 看護部 看護師長

大阪府立成人病センター入職後、11年間、専任教員として看護教育に携わる。2006年4月より同センターにて再びがん看護に従事。実証的研究「看護学生の茶髪はどこまで許せるか」（2001年）、「好感のもてる看護師の髪型」（2008年）はユニークな視点がマスコミにも注目される。主任看護師・副看護師長の経験より職場環境マネジメントの重要性を実感し、大阪教育大学大学院教育学研究科 職業科学研究分野 修士課程修了。現在、立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科博士課程在籍中。

著作として、「看護師の作業環境調査から見た安全で働きやすい職場の構造」（『第44回日本看護学会論文集—看護総合—』日本看護協会、2014年）、「看護師が抱える医療事故への不安と作業環境との関連性」、「看護管理者の安全衛生や職場環境改善への関心が看護師の作業環境・医療事故への不安・勤務継続意思に及ぼす影響」、「作業環境質問紙調査で高評価を得た病棟の看護師長に共通する実践内容」（いずれも『第44回日本看護学会論文集—看護管理—』日本看護協会、2014年）、「スタッフの意欲を高め、組織を活性化する『看護の日』のイベント企画—多職種ダンスを実現するためのチームビルディング」（『看護人材育成』日創研出版、2015年）などがある。